

第29号

令和7年3月発行

2025.Mar.



剣脈



▲冠雪の背振山系を望む

公益社団法人

福岡県剣道連盟

〒810-0052 福岡市中央区大濠1丁目1番1号 福岡武道館内

TEL:092-712-1890 / FAX:092-712-1891

脈動



公益社団法人 福岡県剣道連盟
専務理事 畠末 秀一

令和七年度にむけて

令和六年度を振り返るとすべての事業が計画通りに実施され、コロナ感染症による影響は払拭されました。また、全国規模の各種大会において本県の選手が充分な力を発揮して好成績を収めることができたと考えています。来年も期待するところであります。

さて令和七年度の重点項目を次のように掲げました。これは各専門委員会委員長と諮問機関の医科学委員会委員長の意見を参考に策定しました。

1 財政基盤の確立と適正な事業運営

- ・安定的な財政基盤確立に向けた収支構造の最適化
- ・公益目的事業等における効率的運営の実施
- ・倫理規定の遵守ならびに安全な事業運営

2 健康・安全対策の実施

- ・生涯剣道を目指すための医科学的知識・技術の提供
- ・大会・審査会・稽古会を安全に行うための援助
- ・感染症の流行状況に応じた対処方法の検討

3 大会、講習会、研修会等適切な事業運営

- ・各種大会、講習会、研修会等に参加する会員への快適な環境づくり
- ・講習会、研修会等の参加者拡充のための働きかけ

4 指導者層拡大と指導内容の充実

- ・剣道の正しい継承と普及発展のため、講習会内容の充実
- ・試合審判法の徹底と審判員の技術向上

5 少年剣道の育成

- ・少年剣道指導者に対し、暴力禁止・ハラスメント防止の徹底
- ・少年剣道指導者層、学校指導者との連携を図り部活動改革と剣道人口減少への対応

6 女性指導者の人材育成

- ・女子委員会の設立
- ・女性講師の育成
- ・県女子講習会、なでしこ大会の充実

目次	
脈動	一
連合地区剣道連盟通信	二
居合道通信	四
杖道通信	五
各域からのご報告	六
医科学安全委員会だより	十一
活躍への道	十三
昇格・昇段	十五
編集後記	十七

7 全国トップを目指す 「チーム福岡」づくり

・国民スポーツ大会、都道府県対抗剣道大会でベスト四以上を達成できる強化訓練の実施

・少年から中・高年齢層選手までの継続的強化

・「小・中・高一貫指導剣道強化合宿」の継続と充実

8 広報活動の推進

・『剣脈』の内容充実

・剣道人口減少防止の取り組み等について情報発信

・幅広い会員からの情報収集

・賛助会員加入のPR活動

以上ですが、令和七年度には女子委員会の新設を考えています。これは女性指導者の育成と指導力向上を図り、幼少年の剣道普及に女性の力を発揮してもらおうとする全剣連の要望もあり各都

道府県に設置されてきた現状があります。本県においても女性の活躍を期待しているところです。

その他は、文言として昨年と変わった点はありませんが、いつも課題として取り上げている財政に関することは急を要する事項です。本年十二月に新武道館が建設され事務局も移転をしますが、賃借料が現武道館の三倍以上になり、また、郵便料金や諸物価の値上げで管理費の支出が大幅に増えることとなります。それと最低賃金の値上げに伴い職員の給与を上げることが必須で、これらの支出は会費収入から支出しなければならぬようになっており、赤字となり早急な改革が必要となります。痛みが伴うこととなりますが、組織を維持していくためには避けられない状況になっています。当然、事業支出についてはいろいろな面での経費節減で赤字を最小限にする事業運営を実施していくつもりです。

また、ガバナンス強化のため役員の選任規則を策定し、定年制、任期について明確にしたいと考えています。

令和七年度は多くの解決しな

ければならない課題があり、そのためには会員の皆様のご理解とご協力をいただきながら取り組みなければなりませんのでよろしくお願いいたします。



連合地区 剣道連盟通信



◆北九州連合地区 豊前 築上剣道連盟
豊前・築上剣道連盟
梶屋 周二

剣道再開と七段昇段

令和六年九月一日福岡市総合体育館に於いて、永年の願いであつた剣道七段を受審し合格することが出来ました。

道場の皆さんから受審当日最高齢七十七歳で、しかも一回で合格した感想を是非剣脈に投稿してくださいと依頼がありました。

私は、中学から剣道を始め、高校・大学と毎日が稽古稽古で諸先生方、先輩方のご指導をいただき、そのかいあって昭和四十三年第十六回全日本学生剣道選手権大会に九州代表メンバーとして参加出来ました。

その後、家業を継ぎ、先代が元気なときは稽古も出来たのですが、先代が亡くなってからは、仕事中心で剣道から段々離れました。

十一年前、長男が帰郷し家業と一緒に言うようになり、二年前に代表を長男に譲りました。時間のゆとりが出来つつある時、気がついたら七十六歳、前々から剣友の皆さんから剣道に誘われていましたので、約三十年ぶりに令和五年十月から、故虎谷健次郎先生の椎田弘道館、行橋共振館老子会で、体力の衰えや昔、稽古で左足アキレス腱を断裂したことに注意しながら、稽古を始めました。自宅での毎日の柔軟体操及び素振りを行い、

どうにか竹刀さばき・体の動きが出来るようになりました。年齢を考えた時、七段を受審するのも今しかないと申込をしました。

受審にあたって、自分なりに心がけたことは、

- 一、姿勢を正しく
- 二、発声を相手より大きな声で
(自分に対する士気の高揚)
- 三、無駄打ちをせず、相手の動きをよくみる
- 四、短い時間なので攻めの気魄で
- 五、機を見て打つ時は全身の力で素早く打ち込む
- 六、打った後の残心

です。私は審査は試合と思ってます。気剣体一致で一本です。剣道再開に誘っていただいた剣友の皆さんに感謝いたします。

今後、体力に応じた稽古をして行こうと思います。会社、仕事をリタイヤされた方々、もう一度、剣道を再開してみませんか。

◆筑後連合地区八女地域剣道連盟



八女地域剣道連盟
理事長 木本 光彦

八女地域剣道連盟の 活動状況について

八女地域剣道連盟の剣道の歴史は、昭和六年に八女有段者の会が結成され大日本武徳会、全日本撓競技連盟を経て、昭和四十三年に全日本剣道連盟へ福岡県剣道連盟八女支部として組織化され現在も脈々と伝統を受け継いでいるところです。現在の組織は筑後市剣道連盟、広川町剣友会、黒木町剣友会、八女市剣友会、立花町剣友会、星野村剣友会、矢部村剣友会の七地区の剣道五段以上の会員で構成し本年

度の会員は、百四十三名（八段一名、七段五十九名、六段三十名、五段五十三名）です。

合同稽古会については、八女市総合体育館武道場にて毎週、水曜日と金曜日午後六時半より午後七時半迄行っており若年者から高齢者まで二十名から三十名の剣士が久留米市をはじめ筑後地区の先生方にも多数参加していただいております。若いうちの参加が増え活気ある稽古会になっています。

大会では地域対抗剣道大会の昨年度優勝を含め、今年度十一月に行われました筑後地区郡市対抗剣道大会では団体優勝、個人優勝（男子の部六・七段）の好成績を残しています。高齢化が進む中で現在六十歳以上が会員の半数を占めており高齢者大会である福岡県ねりんピック大会及び老壮三国対抗剣道大会（久留米市剣道連盟、筑後連合）へ多くの会員が参加し平成三十年には全国ねりんピック大会出場を果たしています。また、管内各地区での少年剣道大会を含めた大会が毎年開催され筑後若楠旗剣道大会（筑後市）、大藤

祭り剣道大会（黒木町）、筑後地区親善少年剣道大会（八女市）、筑後地区親善剣道大会（広川町）など長い伝統の大会として続いています。

八女地域剣道連盟での七段合格が増えていの中で井手勝彦先生に続く八段合格者が誕生することで剣道指導者の資質向上が図られ、また新たに剣道を始めたと思う若者を増やすことに繋がることではないかと思うところです。最後になりますが、先輩方が築き上げた伝統を継承し、剣道の良さを次の世代に伝えることが出来るよう育成し地域剣道の活性化と発展のため、多少なりと貢献させていただけたいと思います。





居合道通信



居合道部
事務局長
馬場 清治

第五十九回 全日本居合道大会・報告

二〇二四年十月十九日(土)に東京武道館に於いて、第五十九回全日本居合道大会が開催されました。

本年度も、強化・研修委員会の先生方と共に七月末より大会前週までこの大会に向けて強化錬成会を行いました。

今回は、五段の部、六段の部の選手二名が初陣となる大会で、五段の部の松田選手は一回戦こそ力みは見えたものの、二回戦は力みも取れ普段の居合が演武でき勝ち進みましたが、惜しくも三回戦で敗れました。六段の部

のジェームズ選手も今回が初陣でありながらも、堂々とした居合を演武し一、二、三回戦を危なげなく勝ち進み四回戦で力尽きました。

七段の部の横田選手は、落ちていた居合を演武し、昨年の雪辱を乗り越え四回戦まで進みましたが、力及ばず敗退となりました。

各選手とも、あと一試合戦いたかったという思いはあると思いますが、全日本居合道大会という大舞台で、選手二名が初陣で、今までにない緊張感を味わいながらも、それぞれが持てる力を存分に出し切ったのではないかと思います。

また、年々全体のレベルが上がってきており全般的に接戦が繰り広げられた試合が多かったのではないかと感じられました。各選手自身はいろいろと試合を振り返り反省するところもあるのではないかと感じますが、試合内容に関しては、持てる力を十分に発揮して戦ってくれた

ことをご報告いたします。三名の選手にはこの大会で得た緊張感と経験を活かし、今後の更なる精進を期待いたします。



公益社団法人 福岡県剣道連盟 ホームページでも最新情報を公開中!

福岡県剣道連盟公式ホームページでは大会・審査会の最新情報や、各地域の動向を更新しております!スマートフォンにも対応しているので、是非ご活用ください!!

スマートフォン版は、こちらから読み取って下さい



公益社団法人 福岡県剣道連盟



杖道通信

千代剣友会
杖道教士七段
松坂 徳昌

杖道活動報告

私が所属している千代剣友会では、居合道、杖道の修練を行っております。

現在四十数名の会員が所属しており、毎週火曜日（東区和白公民館）・金曜日（篠栗社会体育館）・土曜日（篠栗記念体育館）にて活動し、その七割の方が杖道を習っています。最高齢の剣道・居合道教士七段・杖道三段の安河内政光先生九十四歳（杖道のみ所属）をはじめ、老若男女が稽古に励んでおり、会員の中には剣道日本十一月号で紹介された馬渡胡桃さん（高校生三段二段）も親子で所属しています。当会では講習会、各大会、護国神社奉納

演武等にも積極的に参加し、杖道繁栄に力を注いでいます。

毎週水曜日（粕屋東中学校）には、以前から稽古に行かせていただいていた粕屋杖道会で、令和五年一月に逝去された橋本幸士先生の後を引き継ぎ指導に当たっています。

粕屋杖道会では、中高生六名が所属し稽古に励んでおり、知り合った当初はまだ皆小学生の小さな子どもたちでしたが、現在では身長・技ともに成長し、お互いがライバル心を持って切磋琢磨しています。水曜日の稽古には、千代剣友会からも数名が参加し、共に稽古に励んでいます。これからは子どもたち自らが指導者となって橋本先生の遺志を引き継ぎ、粕屋杖道会を繁栄させて行く事を願っております。

令和六年十月十三日（京都武道センター）に行われた第五十一回全日本杖道大会には、福岡から十三組二十六名が参加し、千代剣友

会からも七名が出場させていただきました。錬成会では福岡連杖道部会長の富永先生をはじめ、八段の先生方から熱心なご指導をいただき、緊張感を持った稽古が出来ました。大会では初段の部で榊原隆之介（博練会）・曾 暁（八幡杖道会）組が優秀賞を受賞されました。

令和六年度の杖道専門委員会の杖道普及活動の一環として、令和六年九月八日に福岡市総合体育館にて杖道講習会と併せて第四回初心者体験教室を開催いたしました。

当日は十二名の方が参加され、杖道の基本から制定型数本を体験されました。令和六年五月に逝去された、千代剣友会所属の矢幡健治さんの御家族も加され、熱心に取り組んでおられました。体験後には新たに二名の方が入会されました。

これからも杖道発展のため、各委員会と協力して普及活動に取り組んで行きたいと思っています。





各域からのご報告



福岡県中学校体育連盟
剣道専門部長
大森 靖雄

令和六年度第四十二回
福岡県中学校新人剣道大会
を終えて

中学一・二年生による福岡県
中学校新人剣道大会は、県内六
地区の予選を勝ち抜いた男女各
二十四校によって、十二月十四
日に福岡市民体育館で行われま
した。

夏の県総体を終え、令和六年
九月一日付けの「新型コロナウイルス
感染症が収束するまでの
暫定的な試合審判法の今後の取
扱いや『剣道試合・審判・運営要
領の手引き』の改訂」の発表をう
けての、コロナ後の新たな時代
の幕開けとともに、新チームが
スタートしました。

選手たちは、日々の稽古で戸
惑うこともあったようですが、
しっかりと地力をつけ、各地区
予選を勝ちあがり、県新人大会
へと駒を進めてきました。

選手たちは、新型コロナウイルス
感染症が収束するまでの暫
定的な試合審判法の今後の取扱
いや『剣道試合・審判・運営要領
の手引き』の改訂にしっかりと
対応した試合を展開し、今後の
福岡県の剣道界を担うふさわし
い、思い切りのいい技を出し合
う、気魄あふれる試合を展開し
てくれました。

上位校は二月に熊本県で行わ
れる白龍旗大会や宮崎県で行わ
れる宮崎全中プレ大会、三月に
佐賀県で行われる神崎市長旗大
会に出場します。各大会での活
躍を期待しています。

最後になりましたが、中体連
の先生方ならびに関係各位の熱
意と絶大なるご尽力に感謝申し
上げます。

大会結果

男子団体の部

優勝…玄洋中学校 (福岡市)
準優勝…飯塚日新館中学校 (筑豊地区)
第三位…筑後中学校 (筑後地区)
姪浜中学校 (福岡市)



男子団体戦
準優勝 飯塚日新館中学校



男子団体戦
優勝 玄洋中学校



男子団体戦
第三位 姪浜中学校



男子団体戦
第三位 筑後中学校





女子団体の部

優勝：老司中学校 (福岡市)
 準優勝：飯塚日新館中学校 (筑豊地区)
 第三位：高田中学校 (筑後地区)
 須恵中学校 (筑前地区)



女子団体戦
準優勝 飯塚日新館中学校



女子団体戦
優勝 老司中学校



女子団体戦
第三位 須恵中学校



女子団体戦
第三位 高田中学校

賛助会員募集

公益社団法人福岡県剣道連盟では、当連盟活動の趣旨に賛同し、
 事業を支援していただける団体(法人)様を募集しています。(現在5社)
 当連盟活動の趣旨にご賛同頂き、賛助会員にご登録頂きますと、

1. 当連盟の刊行物にお名前(企業・団体名)を掲載させていただきます。

※全ての刊行物ではございません。

2. 当連盟のホームページに「バナー」を設置し、リンクさせていただきます。

賛助会員としてご支援頂ける場合、福岡県剣道連盟ホームページ内「賛助会員のご案内」
 より入会申込書をダウンロード後必要事項をご記入の上、事務局宛にご送付下さい。
 追って、事務局よりお振込先の口座をご案内致します。

【申込書送付先】

〒810-0052 福岡市中央区大濠1丁目1番1号 福岡武道館内
 公益社団法人 福岡県剣道連盟 事務局

スマートフォン
 版は、こちらから
 読み取って下
 さい





活動報告



福岡県高体連剣道専門委員長

八女高等学校
畑江 秀彦

この一年の高体連剣道専門部の活動及び状況を振り返りますと、競技力については、玉竜旗での福大大濠高校の優勝、全国高校総体での中村学園女子高校の団体・個人優勝、国民スポーツ大会での少年女子の優勝と各種大会で好成績を収めることができました。「全国屈指の激戦区」と言われるだけでなく、結果を残すとともに試合内容も充実していたと思います。

一方、普及面については、競技人口問題は全国的な課題として取り上げられている中、本県においても歯止めがかからず、減少の一途をたどっており、部員減少、剣道部設置校数の減少が今年も進みました。高体連として特に注目したいのは、高校進学

後に剣道から離れている生徒数です。その原因は様々であると思いますが、部活動の地域移行や外部指導者の増加が進められていくことが予想されるため、地域指導者、中・高の指導者が連携しながら、中学から高校へ進学後も剣道を続ける環境づくりを進めていく必要があると思われまます。

さらに、指導者の課題としては、コンプライアンスの意識向上と審判技術の向上があげられます。剣道連盟主催の研修会や講習会への参加を促すとともに、高体連が開催する研修会や講習会の質の向上を図ることが必要であると感じています。



大会成績

令和6年度福岡県高等学校剣道新人大会

男子団体 優勝 福大大濠

準優勝 東福岡

第3位 福岡第一 西短大附

女子団体 優勝 福翔

準優勝 福岡第一

第3位 中村学園女子 久留米商業

男子個人 優勝 森 大颯(福大大濠)

準優勝 橋本 大治(東福岡)

第3位 矢野 佑紀(福大大濠) 志水 俊介(東福岡)

女子個人 優勝 福園 紅音(中村学園女子)

準優勝 岩中 優希菜(筑紫台)

第3位 牛嶋 柚希(中村学園女子) 永松 真和(八女)

令和6年度全国高等学校剣道選抜大会福岡県予選会

男子 優勝 福大大濠

準優勝 福岡第一

第3位 東福岡

第4位 朝倉

女子 優勝 中村学園女子

準優勝 筑紫台

第3位 福岡第一

第4位 久留米商業



福岡教育大学
本多 壮太郎

九州学生剣道連盟の 活動・大会結果報告

九州学生剣道連盟は、九州地区の各大学剣道部を以って組織されています。また、全日本学生剣道連盟に加盟し、学生間における剣道の奨励発展と加盟校相互の連絡及び親睦融和を図り、日本剣道の発展に寄与することを目的としています。

今年度は九月以降、改訂された「剣道試合・審判・運営要領の手引き」および策定された「感染症ガイドライン」に沿った大会の企画・運営となりました。主催大会の主な結果は下記の通りです。

各大会において快く審判をお引き受けいただいた先生、先輩方にはこの場をお借りして深く御礼申し上げます。ありがとうございました。今後も加盟大学との連携を図りながら九州学生剣道連盟の活動を充実させていきたいと思っております。

令和6年5月11日(土)開催

■九州学生剣道選手権大会(於 粕屋町総合体育館)

【男子第71回】

優勝	大平 翔斗(鹿屋体育大学)	準優勝	大園 凌剣(別府大学)
第三位	船迫 仁也(鹿屋体育大学)	第三位	吉岡 賢太郎(日本経済大学)

【女子第57回】

優勝	峯松 加奈(鹿屋体育大学)	準優勝	上野 蘭(志學館大学)
第三位	徳川 美空(鹿屋体育大学)	第三位	御厨 彩華(鹿屋体育大学)

令和6年5月25日(土)・26日(日)開催

■西日本学生剣道大会(於 久留米アリーナ)

【男子第69回】

優勝	鹿屋体育大学	準優勝	近畿大学
第三位	立命館大学	第三位	関西学院大学

【女子第39回】

優勝	鹿屋体育大学	準優勝	別府大学
第三位	松山大学	第三位	福岡大学

令和6年9月16日(月・祝)開催

■九州学生剣道優勝大会(於 粕屋町総合体育館)

【男子第71回】

優勝	別府大学	準優勝	鹿屋体育大学
第三位	九州共立大学	第三位	日本経済大学

【女子第47回】

優勝	鹿屋体育大学	準優勝	別府大学
第三位	志學館大学	第三位	福岡大学

全日本学生剣道連盟主催大会での九州学生剣道連盟加盟大学の戦績は下記の通りです。

令和6年10月14日(月・祝)開催

■第72回全日本学生剣道優勝大会(於 Asue アリーナ大阪)

準優勝 鹿屋体育大学

令和6年11月9日(土)・10日(日)開催

■第43回全日本女子学生剣道優勝大会(於 春日井市総合体育館)

優勝 福岡大学

大会結果



福岡県警察
剣道師範
蓮尾 孝幸

福岡県警察剣道特練の活動報告

令和六年度後期の福岡県警察剣道特別訓練活動状況をご報告させていただきます。

九月三日、日本武道館で開催された全国警察剣道選手権大会には、男子の部が国友、望月、牧島、池田の四名、女子の部が糸山、村田、妹尾、柿元の四名が出場。全国警察の猛者が一本勝負で熾烈な戦いを繰り広げる中、池田選手が勝負強さを発揮して第三位に入賞、また柿元選手も健闘して第五位入賞とそれぞれ初出場ながら素晴らしい試合を展開しました。

十月二十一日、日本武道館で開催された全国警察剣道大会では、男子は警察の頂点を目指して強豪十二チームが鎬を削る七人制の第一部に出場（選手は国友、矢野、松本、望月、牧島、百

田、水田、池田、田城の九名登録）、三県予選リーグにおいて大阪府警に惜しくも敗れ準決勝進出はなりませんでしたが、香川県警に四対一で勝利して今年も一部残留を決めました。女子団体戦（糸山、村田、妹尾、柿元の四名登録）は、全国から精鋭三十一チームが参加して三人制のトーナメント戦が実施されました。本県は前年度優勝のため一回戦シード、二回戦兵庫県警との対戦は代表戦の末に妹尾選手が会心の面を決めて勝利、三回戦埼玉県警と準決勝宮崎県警には三対〇で完勝して決勝戦進出となりました。決勝戦は神奈川、大阪を下して勢いに乗る北海道警察との対戦となり、先鋒柿元選手が引き分けた後、中堅村田選手が気迫の面を先取るも逆転負けを喫してリードを許しました。しかし、大将妹尾選手が強靱な精神力で終始攻め続け、得意の面技で圧巻の二本勝ちを決めてチームを優勝に導き全国初の二連覇を成し遂げました。これは女子選手全員のチームワークで勝ちとった嬉しい優勝旗でした。

十一月三日、日本武道館で男女同日開催された全日本剣道選手権大会には、本県警察から牧島、水田、池田、妹尾の四名が出場しました。男子の部では水田、池田の両選手が思い通りの良い剣道で会場を沸かせて第五位（ベスト八）に入賞、また女子の部では妹尾選手が安定した力を発揮して第三位となり存在感を示しました。

本年度の大会を振り返ってみますと、どの大会も実力伯仲しており勝負の行方がどう転ぶかわからない厳しい状況でしたが、好結果につながったのは國友キャプテンを中心に選手が一致団結して厳しい訓練を乗り越えてきたからだと思います。特に若い選手の成長が著しく、今後の活躍が楽しみなところでもあります。

これからも、この結果に慢心することなく更なる高みを目指し、選手と指導者が一枚岩となつて努力精進していく所存であります。今後とも皆様方の温かいご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



福岡県学校剣道連盟
事務局
富澤 拓馬

第四十七回福岡県教職員剣道大会報告

令和六年十二月八日、福岡武道館に於いて、第四十七回福岡県教職員剣道大会（兼全国教職員剣道大会福岡県選手候補選考会）が開催されました。感染症も緩和されたこともあり、様々な地区から多くの先生方が大会に参加することができました。参加者は六十三名の先生方が選手として出場され、昨年同様に個人戦のみで、出場部門も年齢別で行いました。

今回も二十代を中心に、多くの先生方が初出場されました。若手の部門の試合がより質の高い試合展開ばかりで、どの部門も日頃の鍛錬の成果を発揮し、緊迫感ある白熱した試合が展開されました。特に三十五歳以上四十四歳以下の部では、決勝戦に昨年優勝された窪田選手が栄

光を勝ち取り、本大会三連覇という偉業を成し遂げられました。成績は次のとおりです。

大会結果

〈三十四歳以下の部〉

優勝…佐藤 祐太 (大宰府高校)
準優勝…徳永 和輝 (朝倉高校)
第三位…森田 大陽 (筑紫台高校)
藤島 剣 (福岡常葉高校)

〈三十五歳以上四十四歳以下の部〉

優勝…窪田 健吾 (柏原中学校)
準優勝…久保山崇之 (春日高校)
第三位…立石 哲平 (福島中学校)
竹井 雄士 (三筑中学校)

〈四十五歳以上五十四歳以下の部〉

優勝…大淵 量 (久留米商業高校)
準優勝…儀武 純一 (東福岡高校)
第三位…笠井 克敏 (香椎高校)
末次 正志 (大刀洗中学校)

〈五十五歳以上の部〉

優勝…佐藤 倫明 (久留米商業高校)
準優勝…栗野賢一郎 (朝倉高校)
第三位…井上 聡 (朝倉光陽高校)
渡邊 俊浩 (山田中学校)



〈女子の部〉

優勝…西 伊万里 (福岡高校)

※女子は優勝者のみ

令和七年八月に愛知県で全国教職員大会が開催されます。昨年度はベスト八入賞と本県も少しずつ力をつけてきました。今後は上位入賞者を対象に稽古会を実施予定です。これから全国大会にむけた強化をしていこうと考えていますので、今後とも県剣道連盟をはじめ、関係団体の皆様にご指導・ご鞭撻・ご支援をお願いいたします。

医科学安全委員会 だより

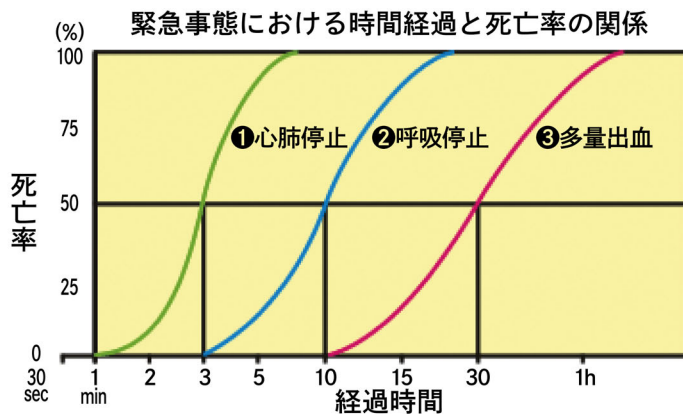


医科学安全委員会
安藤 真由美

緊急時の対応

剣道の稽古や日常生活の中で、いろいろな不測の事が起こることがあります。道場の稽古に限らず、指導されている先生方は特に安全配慮に留意していくことが求められています。

例えば、急に心停止（心臓停止）や呼吸停止が起こることがあります。そんな時は「カーラーの救命曲線」といわれる「心停止・呼吸停止からの死亡率」を示すものがありますので、参考にしてみましょう。



① 心臓停止後

三分 ↓ 五十% 死亡、
十分 ↓ 百% 死亡

② 呼吸停止後

十分 ↓ 五十% 死亡

③ 多量出血から三十分

↓ 五十% 死亡

「カーラーの救命曲線」

「救急車要請について」

救急車到着迄に平均約六分です。コロナなど感染症の流行時期、または熱中症などが多い時期は救急車の到着が遅れますので注意が必要です。

救急車要請をしたら、携帯電話を切らずに、指示を受けながら観察や処置しましょう。

とにかく早く救急車の到着してもらうのに、意外に有効なのが救急車の誘導です。誘導をスムーズに行うことで一〜五分の差が出ます。わかりにくい道路や建物入口は手を振って「こちらです。」と大きな声で誘導します。

救急車を呼べる状況は、生命にかかわるものが優先されます。以前は救急車が呼べたアキレス腱切断などはケガなので、生命には直結しません。そのため実際のアキレス腱断裂の例では救急車は来てくれない、救急外来に行ったのに整形外科の先生が不在で後日平日に受診して欲しい、と帰宅させられています。

「救急蘇生のコツ」

最初に確認することは意識の確認です。意識状態は声をかけ、肩を軽くたたき、反応があるかを確認。知り合いなら名前を呼んで返事の有無を確認します。意識が無い場合、呼吸や心臓の動きが停止していることを確認できてから、救急蘇生を始めます。

救急蘇生法の基本として、五つをあげます。

① 手当はなるべく多くの協力者を。

② AEDを探す。

◎ AEDのある場所..

AEDマークのある店やビル、自動販売機、学校など。



③ 安全な所で救急蘇生を行う。

救助者の安全確保も考えて行います。

④ 心肺停止の場合、人工呼吸をしなくても、心臓マッサージは行う。

人工呼吸は感染等の危険があるため、一般の方は人工呼吸を無理にしなくてもよいとされています。

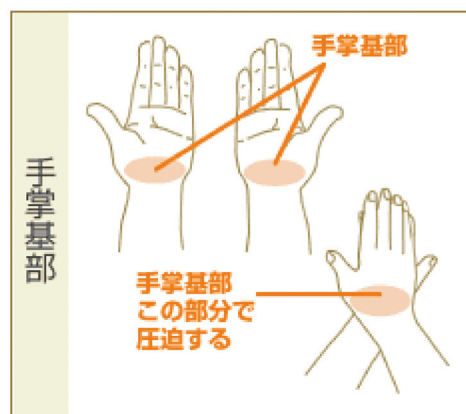
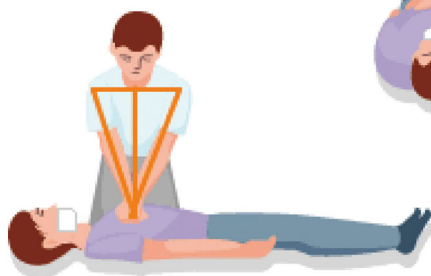
意識の確認



両肩が胸骨の真上に



体の中心線が
圧迫部位の真上に



ゴリけん

九州学院高校、福岡大学で剣道の修行に励み、
現在剣道四段。

1973年八代市日奈久生まれ。本名：町田 健一郎
福岡大学剣道部理事。

Youtube剣道専門チャンネル
「ゴリ剣道チャンネル」の
運営など剣道普及の活動中。

チャンネルは
こちらから



剣道の経験が 僕をつくった

剣道との出会い

小学校五年生からですね。父が八代剣道連盟の会長だったこともあり、僕のために道場を車庫の上に作ってくれました。父からは無理してやらなくていいと言われてたんですけど、やらなかったら一生口聞かんと言われたんです。それはどうということやと思って(笑)。

家は道場経営ってわけじゃないですけど、練習場としてやっていて、当時は、近所の中学生とかも来てて、僕も小学校・中学校の剣道は体育館と帰ったら家だと剣道づけでした。

当時は、八代東高等学校が全国屈指の強豪校として井上公義先生(剣道八段)が指導されている頃でした。私が所属していた小・中学校は、そこまで強くはなかったんですけど、私自身は、そこそこ勝っていたりして、みんなも先生たちも「町田(ゴリけんさんの本名)すごか」ってなんか褒め

ていただいていたのもあり、僕はちよっと目があるんじゃないかな？なんて、思ったものですから、「これは全国屈指の強豪、九州学院に行こうかな」と覚悟して九州学院の門を叩きました。

意気込んで入ってみたものの、勘違いだったと痛感しました(笑)。

僕が入学したタイミングは、九州学院が総体を取れていない時期で、第二期黄金時代が僕の父で、第二期が終わった時期なんですよ。

それもあって、ちよっと色々なところのスーパーエース級の人たちを集めた年だったんです。

特技推薦で入ってくるような人が三十人ぐらいいて、九州チャンピオンとかもいて、そこに一人だけ、なんかOBの息子みたいな感じの扱いで、正直レベルの差がもうありすぎてキャッチボールができない状態でした。

結局僕らの世代は、玉竜旗三位、インターハイ優勝という結果だったけど、僕はもう全然そこでレギュラーになるなんて：という感じで、とりあえず続けるっていう、方向性に転換させました。

そうやって続けていると、ある時先輩から合宿時になんか面白

いことやれって言われたんですけど、それまで、僕一言も喋れない性格だったんです。でもちよっとここぞなんかせんとこのまま終わるなと思って、思いっきりそのおしりを出したんですよ。そしてたら誰だ、誰だってなってあの町田が!?って一気に学校中に広まって、そこからもう完全にムードメーカーになりましたね。

当時からとんねるずさんが好きで、石橋貴明さんは帝京野球部の補欠・木梨憲武さんはサッカー部で学校の人気者というのが重なって、今の仕事の原点ともなった瞬間でしたね。九州学院剣道部のおかげで今があるという感じです(笑)。

でも、高校を卒業してお笑いをやろうって発想は全くないんですよ。なんとなく大学って流れで、セレクション受けさせてもらって福岡大学にいったんです。進学してすぐ、お前面白いらしいなっていうので、宴会ではコントとかもやりまくって盛り上げてましたね。でもそこで色んなことを学ばせてもらいました。剣道のことも含めて人間関係など大事なことを。



お笑い芸人としての活動の拠点を福岡に移して今の事務所を立ち上げた時に、福岡大学剣道部の人たちが協力してくれて、チケットを一緒に売ってくれたり、今でも続く大事なつながりですね。

芸人になってから、剣道から離れていたんですけど、芸能人剣道大会というTV番組の企画があつて絶対勝てるやろうと思つてたら、原口あきまささんに負けちゃったんですよ。

それがとても悔しくて、福岡に戻って「段」を取ろうってことに

なりました。幸い稽古場所には恵まれていたので、しつかり稽古もできたので、現在は四段になりました。

剣道を通じて
辛かったこと・楽しかったこと

やっぱりこうポップな競技ではないじゃないですか。九州学院高校はもともと男子校ですけど、体育祭の時は女子がすごい集まるんですよ。そこでスポーツ部活紹介があつて、やっぱり甲子園常連の野球部とかサッカー部とかがキャーキャー言われるんですよ。

その後ろに剣道部が出てきたんですけど、防具の匂いとかネガティブなイメージのせいか、微妙な雰囲気になって、僕も少し恥ずかしくなっちゃつて、めっちゃ早歩きになって、前に行くサッカー部を追い越しちゃつて（笑）後ろ下がれて言われた辛い経験があります。

一方、楽しいと感じる瞬間は、今じゃそんないでしょうけど、先輩からのキツイ指導とかしよっちゅうでしたけど、できない技とか、そういうのが習得して

いくと、嬉しかったですね。得意技は合い小手面とか抜き胴だったんですけど、ジャイアントキリングじゃないけど、現役の方に勝ったりした時は気持ちよかったですよね。Youtubeチャンネルのほうにあるんでぜひ、観てください。

今後の活動について

やっぱり五段に挑戦ですかね。まあ受けるってなったら体を絞つてがつつり稽古しないといけないです。

何歳になつても剣道ができるっていうのはいいですよ。剣道は、生涯スポーツっていうだけあつてゴルフと似てるなと思うんですけど、仲間が集まつて大会や稽古の後の飲み会でも一切仕事の話せず、ずっと剣道の話ばかり。防具のコレクション性とかあるじゃないですか。昔のただ重い防具じゃなくてあれじゃないこれじゃないとそういった時間も楽しいです。

仕事では、玉竜旗の解説とかもやらせていただいたりしてるん

ですが、そういった活動を通じて、僕みたいな立場の人間だからこそできることがあるんじゃないかなって思つて、Youtubeチャンネルをやってみたりしてるんです。

また、みんなで試合するのは本当に楽しいです。「ゴリ剣道大会」とかどうですかね（笑）。初心者の方や普段試合に出られない方も出場できるような大会を実施したいと思います。その時はみなさんよろしくお願いします。



昇格・昇段



山下 好三

剣道八段に昇段して

令和六年八月の八段審査において、昇段いたしましたことのご報告とご支援いただきました各位にお礼を申し上げます。

私の剣道人生は、昭和五十八年四月東海大学体育学部武道学科に進学した時から本格的に始まりました。大学では、故橋本昭雄範士や現全剣連会長網代忠宏範士に剣道実技や剣道・武道全般の知識を教授していただく機を得ました。

卒業後は、地元北九州市に戻り中学校教諭の職に就きました。最初の二年間は他競技の顧問をしていましたが、以後三十六年間は市内各中学校で剣道部顧問を務めて

います。多くの教職員の方と同様に、部活動顧問としての職責から自分の剣道よりも生徒の指導が中心となったことは言うまでもありません。しかし、幸いにも、とびうめ国体後も続いたジュニア合宿の指導者として、また、現在も続いている一貫指導育成システム強化合宿にも参加させていただくなど、

二十数年間に渡り剣道指導法や自己の剣道の研鑽を積んできました。ジュニア合宿では、県下から参加された多くの範士・教士の先生方に稽古をつけてもらう機会を得ることができました。このように、多くの敬愛する先生と出会い、その度に稽古をお願いし、心技に渡り多くのことを学びました。先生方から学んだことを、自分なりに熟考し、イメージを具現化するべく、地元小倉剣連での稽古に取り入れえました。そして、平生より、八段審査に臨む心構えで、熟考・イメージを自身の技として体得できるように試行錯誤ながらも取組んできました。

昇段を一つの節目ととらえ、今後、中学生の剣道普及のための

取組みに力を注ぐと共に、後進を育て中体連発展のために尽力したいと思っています。また、福岡県剣道連盟に対しても、微力ながら恩返しができるように活動をしていく所存です。



山近 寛人

今できることは全てやる
決意して臨んだ八段審査

令和六年十一月二十六日東京日本武道館における八段審査会で剣道八段に合格することができました。八段へ昇段することができたのは、ひとえに、ご指導して下さった先生や先輩、剣道でお世話になった全ての方々、支えてくれた家族のおかげだと感謝の気持ちでいっぱいです。

私が、剣道を始めたのは中学校の剣道部に入部してからです。それから、高校・大学と剣道を続け、

卒業後は中学校の教員として剣道部の指導の傍ら、一般稽古会に参加して剣道を続けていました。そして、四十八歳になり初めて東京の八段審査に挑みましたが、他の受審者のレベルの高さに圧倒され、一次審査で終わりをシヨックを受け福岡に戻ったのを覚えています。その後も合計三回受審しましたが結果は同じでした。また、五十歳代になって職場の多忙さから稽古時間が減り、さらには、試合中アキレス腱を断裂したり、病気にかかったりして、しばらく受審を控えていました。そんな中、本格的な稽古を始めのは、退職後の六十二年、十一年振りに京都審査、続く東京審査と受審しましたが、いずれも結果はC判定でした。

このまま、何も工夫なく受審しても同じことの繰り返しになると考え、初心に返って今できることは全てやる決意し、以下のことを意識しながら取り組みました。



①県剣道連盟主催の八段受

審者研修会や八段の先生が主催する研修会には積極的に参加し、悪いくせなどを指摘していただき、普段の稽古のなかで修正する。

②ネットを活用し審査映像や八段戦を見ながら、その姿を頭に焼き付け、普段の稽古に活かすようにする。

③「八段への道」ノートをつくり、指導・助言を頂いたことや自分が稽古で気づいたことなどをメモして、何度も読み返す。

その結果、一昨年の京都審査の一次審査で初めてA判定をもらい、頑張れば結果が付いてくるという自信につながりました。そして、十一月の東京審査、五月の京都審査と連続して一次合格、二次審査の舞台を踏むことでさらに自信を深め、八段受審再開から六回目に当たる十一月の東京審査で八段に合格することができました。

振り返りますと、昨年の六月、

日本武道館で行なわれた全日本高齢者武道大会へ出場し、その際の開会式で日本剣道形の演武を披露する機会をいただき、日本武道館という大舞台で貴重な経験をすること、度胸を付けることができました。また、一昨年、次男が二十八歳で剣道六段に合格、昨年は、長男が三十五歳で七段に合格したことが、自分も息子たちに負けられないという大きな刺激となりました。

最後になりますが、ここまでの道のりの中で何度も受審するのを止めようかと考えたり、「俺、絶対受かるわけないわ」と思ったりしたことがあります。今となれば、諦めなくて良かったとつくづく思います。それから、学生時代や社会人になってこれといった試合実績がない私ですが、地道に稽古を続けることの大切さを改めて学んだと思います。これからも初心を忘れず、日々精進していきたいと考えています。今後ともご指導よろしくお願いいたします。

昇格

剣道「教士」(令和六年十二月二十六日)

森山 恵子	櫻井 英夫	五十嵐 昇	小町 啓人	永岡 義規	縄田 啓一	今永 直樹	若本 晃一	馬場 政和	中嶋 憲明	野坂 時夫	足立 英俊	徳永 光輝	徳田 克則
北原 利一	永見 賢太郎	古賀 慶弥	城戸 謙浩	伊豆 丸洋一	永瀬 幹夫	小長 隆広	石原 勝	末光 優一	尾池 智行	井口 忠二	元永 健介	窪田 健介	亀割 陽介

剣道「錬士」(令和六年十二月二十六日)

高瀬 将嗣	大和 隆治	横尾 研一	大山 長之	松田 弘文	川崎 弘一	厚賀 耕一郎	加賀 淳二	鯉坂 正秋	白水 信和	山下 智弘	花田 茂輝	井上 睦生	箕田 大祐	山口 美奈	前田 敏宏	藤田 裕史
有吉 千穂	佐々木 高雅	彌永 真子	篠原 啓祐	石田 昭吾	井口 健	西原 新太郎	長谷川 勇気	柳井 優和	橋本 剛幸	伊野 一樹	黒石 雅輝	東内 充	窪田 俊翼	齊藤 利恵	武瀬 由利恵	

居合道「錬士」(令和六年十二月二十六日)

水落 宗嗣

杖道「教士」(令和六年十二月二十六日)

入江美智代 … 久家 秀宣

杖道「錬士」(令和六年十二月二十六日)

山本美由紀

五段以上合格者

昇段

剣道「八段」(令和六年十二月二十六日)

山近 寛人

剣道「七段」(令和六年十二月九日)

荻島 正	竹村 亮子	篠原 智洋	栗原 直樹
大森 菜見子	深澤 耕二	木下 靖之	辻川 浩明

剣道「七段」(令和六年十一月十五日)

田仲 健児 … 森 清

剣道「七段」(令和七年二月一日)

井上和佳子	平田 博俊	松林 新	渡辺 裕信	有延 康滋	池田 慶繁	楠木 紀子	新原 剛	三坪 信幸	川嶋 宏樹	東司 崇史	藤島 浩史
瀬戸 憲治	大島 新	大島 佳希	深江 慎治	山口 敦久	林田 一徳	松橋 一匠	森上 一郎	井上 孝鷹	原 孝人	泉 博一	廣田 隆志

剣道「六段」(令和六年十一月十日)

白石 健一 佐藤 康成
清島 隆太

剣道「六段」(令和七年二月一日)

高橋 大治 大西 謙太郎
藤井 久美枝 吉村 勇希
家城 健一郎 高野 陽信
石松 豊弘 本多 美佳
宮崎 憲一郎 鳥尾 聖也
永尾 亮一 益田 聖弓
徳久 君恵 山林 由敬
鳥越 弘幸 藤嶋 宏二
山田 秀己 橋本 翔大
堤 純子 二田 陽介
大場 賀津芳 柳 慎太郎
田之上 泰三 山田 崇正
原口 利弘 一番ヶ瀬 史也
水町 浩和 井上 直毅
小賦 崇 本田 太郎
古賀 大輔 永市 智紀
黒岩 喜久男 山下 貴大
西谷 大輔 福田 裕隆
川路 隼 平 正太郎
木下 健司 甲斐 誼臣
中町 健司 尾知 清
萱野 加奈 根笈 清
財津 健佑

剣道「六段」(令和七年二月十一日)

田中 裕之

剣道「五段」(令和七年二月十六日)

浦本 皓輝 徳永 和輝
熊本 成海 岩永 智宣
星丸 一輝 黒川 昌三
神田 紗那 柴田 六津美
畑中 源太 溝上 裕哉
阿部 良我 大庭 浩平
徳永 健志郎 岩男 透真

久野 裕一郎

松崎 秀典 窪山 太朗
本田 雅三 藤本 賢義
木戸 貴三 廣池 久美子
美田 正機 谷口 友紀子
柳島 圭一郎 森下 清剛
倉ノ下 光 大田 和美
間杉 一磨 岩本 聡子
窪山 誠士 佐藤 浩樹
平塚 孝之 松本 卓矢
吉村 孝也 須崎 弘己
宮崎 辰奈 吉本 聖子
尾木 晴奈 松井 直樹
中井 寛展 古川 博清
笹川 綾子 丸山 浩介

居合道「六段」(令和六年十月三十日)

古賀 重治 高井 正敏
安本 誠一

杖道「七段」(令和七年二月二十四日)

高嶋 憲一郎

杖道「五段」(令和六年十一月二十四日)

植原 栄一 稲吉 伸幸

編集後記

春は別れと出会いの季節です。卒業や転勤などで道場を離れる仲間もいれば、新たに剣道を始める人々との出会いもあります。この時期は少し寂しさを感じることもありますが、剣道で築いた縁は場所が変わっても決して消えることはありません。

剣道には「交剣知愛」という言葉があります。竹刀を交えることで互いを知り、敬意を持って絆を深める。これは剣道ならではの素晴らしい文化です。一緒に汗を流した仲間とは、たとえ距離が離れても、剣道を続ける限りまだどこかで再会できるかもしれません。

一方で、新年度から新たな道場生や仲間が加わることもあるでしょう。初心者であれば、最初は不安や緊張を感じるかもしれませんが、道場の先生や先輩方が温かく迎え入れることで、剣道の楽しさを知り、長く続けてくれるかもしれません。私たち一人ひとりが「剣道の縁をつなぐ役割」を意識し、共に精進していける環境を作ることが大切です。

新しい門出に向かう方も、新たな挑戦を始める方も、それぞれの道で剣道を通じた縁を大切にいただきたいと思います。

(広報委員会：本多壮太郎)